

## 細目取扱い

### 1. 先付け、後付け関係

- 14枚の牌の組合せの中に1翻以上の役がなければならない。役の付け方は「先付け」が基本。メンゼンの場合は選択上がりOK
- メンゼンを崩したときは、下記の場合は「後付け」でよい。選択上がりをする事はできない
  - 2種の役牌のシャンポン待ちで役が付くとき
  - ペンチャン、カンチャン待ちで役が付くとき
  - 次の役を目指すとき  
(ホンイツ、チャンタ、トイトイ、チンイツ、大三元、小三元、大四喜、小四喜)
- 上記以外の場合は、役の付く牌が出ててもロン上がりできないし、ツモっても上がってはいけない(上がるとチョンボになる)
- 役牌の明槓(ミンカン)
  - 手の内にある役牌の刻子(コーツ)を明槓(ミンカン)しても、1翻の役は確定済みとし、後付け扱いにすることはない
- その他
  - フリテンは、ロンアがりできない
  - メンゼンを崩している場合は、偶然役(嶺上開花、槍槓、海底模月、河底撈魚など)は上がり役とはしない

### 2. 終局関係

- 次の場合終局となる
  - 上がり
  - 9種9牌以上で流局が選択されたとき
  - 4風連打流局
  - チョンボによる終局
- テンパイ
  - 門前(メンゼン)の場合、形式テンパイあり、メンゼンを崩した場合は認めない
  - 上がり牌が全部出切っている場合はノーテン扱い